

宝塚市清荒神のチョウ(追録8)

加藤 信一郎

暖冬、冷夏と異常な気象が続く。当地でもそれと関連があると見たいような事象が目についた。

ナガサキアゲハ 皮肉なことに、昨年7月きべりはむし19(2)掲載原稿を投稿した後、同月30日庭に飛来した1♀を目撃、その後は垣根沿いのボタンウツギやクサギに次々と訪花するようになった。

9月末までに7/8頭を目撃、その中2♂1♀を採集した。

ツマグロヒョウモン 例年1/2回見るか見ないかといった程度だが、昨夏は8月ごろから清荒神はじめ隣接する売布、米谷、小浜で10月半ばまでしばしば見かけた。また武庫川対岸の末成町の高田氏宅では、7月庭内のセイヨウニオイスマレに産卵、8月上中旬にかけて多数羽化してゆくのが観察されている。

ナガサキアゲハと共に今年はどのような発生が見られるであろうか。

メスグロヒョウモン *Damora sagana ilona* Fruhstofer

1♀, 6—10—1991. 庭内ツバキのこずえを緩やかに飛しよう中を採集。当地では夏眠後秋に出現する偶産種。1984年に1♀を採集して以来7年振りである。

ウスイロコマチョウ *Melanitis leda* Linnaeus

1♂, 6—9—1991. 松原佳子採集保管。小浜の同氏宅庭で採集。かなり飛び古した個体である。昨年は隣接する伊丹市の外、奈良、京都で本種の記録が報じられているが(朝日新聞、21—9—1991)、宝塚市内の記録として報告しておく。

笠形山のオオキノコムシ

森田 真澄

兵庫県のオオキノコムシ科は高橋寿郎氏により県下32種分布として纏められている(本誌、第11巻—第1号、第2号、1983年)。ところが笠形山産本科昆虫は全く見当たらない。筆者は笠形山(神崎町

側)において寡少なものはあるが、本科7種を採集している。本報告をもって分布記録の空白を埋めたい。

1. *Dacne japonica* Crotch ニホンホソオオキノコムシ

1990年3月30日, 1頭. 1990年4月12日, 1頭. 1990年5月11日, 1頭.

3例とも菌床シイタケ培地を食害中のものを採集した。和名はシイタケホソオオキノコムシともさ
れている。個体数は少ないとは思われない。

2. *Magalodacne bellula* Lewis カタボシエグリオオキノコムシ

1989年6月8日, 1頭. 1989年7月1日, 1頭.

菌床マンネンタケ培地にて採集。菌床培地の下面と地面の隙間に可成り多い。

3. *Triplax japonica* Crotch ホソチビオオキノコムシ

1988年10月15日, 1頭.

ヤマザクラ枯木上のウスヒラタケに多く見られた。

4. *Triplax sibirica* Solsky シベリアチビオオキノコムシ

1990年9月4日, 1頭.

ウスヒラタケ上に多く見られた。

5. *Neotriplax lewisii* (Crotch) アカハバビロオオキノコムシ

1988年5月10日, 1頭. 1989年5月1日.

カワラタケにて採集。多く見られる。

6. *Tritoma nigropunctata* (Lewis) ツマグロチビオオキノコムシ

1988年5月10日, 1頭.

7. *Tritoma niponensis* (Lewis) クロチビオオキノコムシ

1989年5月6日, 2頭.

カワラタケで採集。個体数は多い。

〔註〕菌床培地、オガクズあるいはコーンコブ等にコメヌカ・フスマ・オカラ等の栄養分を混ぜ合わせて殺菌釜でバクテリア・カビ類を死滅させ、そこにシイタケ・エノキタケ・マンネンタケ等の食用菌を接種し、培養し発生させる培養体。通常、ポリプロピレンの袋かビン内に入っている。